

X-point

SAML 認証サービス 設定ガイド

2026/02/01 版



はじめに

◆本書の目的

本書は、X-point と SAML・IdP と連携利用する為に必要なシステムの設定、管理方法について説明しています。本書をよくお読み頂いた上で設定作業を行ってください。

◆対象とする読者

本書は「X-point」のシステム管理者を対象としています。システム管理者とは「X-point」を運用するにあたり必要な設定および基本データの作成、維持管理を行なう本システムの管理権限を持つユーザを指します。

◆対応バージョン（2026/02/01 時点）

| X-point | 備考 |
|---------------|----------------------------------|
| X-point v3.13 | SAML 認証の利用には「セキュリティ基本サービス」が必要です。 |

◆製品名について

本文中、「X-point サーバー」は「X-point」と表記しています。
また、各製品の名称は対応バージョンを省略してある箇所もありますのでご了承ください。

◆商標について

本書の一部、または全部を著作権所有者の許諾なしに、商用目的の為に複製、配布することはできません。
X-point、エクスポイントの名称およびロゴは株式会社エイトレッドの商標または登録商標です。
Microsoft、MS-DOS、Windows は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。Macintosh、MacOS は Apple Computer, Inc. の米国およびその他の国における登録商標です。Adobe、Acrobat、Adobe Acrobat は Adobe Systems, Inc. の商標または登録商標です。ORACLE、Java、JavaScript は、Oracle Corporation 及びその子会社、関連会社の米国及びその他の国における登録商標です。デスクネッツ、desknet's は株式会社ネオジャパンの登録商標です。サイボウズ、Cybozu はサイボウズ株式会社の登録商標です。Google、Google ロゴ、Google Apps は、Google Inc.の登録商標または商標です。

その他、記載された会社名およびロゴ、製品名などは該当する会社の商標または登録商標です。本書では、©、®、(TM) の表示を省略しています。ご了承ください。

◆製作著作

©2025 株式会社エイトレッド

目次／索引

| | | |
|--------|-------------------------------------|----|
| 1. | SAML 認証サービス設定の概要 | 4 |
| 2. | SAML 認証サービスの利用 | 4 |
| 2.1. | 前提条件 | 4 |
| 2.2. | 連携の仕組み | 4 |
| 2.3. | SAML 認証サービスの仕様 | 5 |
| 2.3.1. | 連携可能な X-point のドメイン | 5 |
| 2.3.2. | 同期すべきユーザー情報 | 5 |
| 2.3.3. | eFormMaker から X-point への接続 | 5 |
| 2.3.4. | 通知メールからの書類表示 | 5 |
| 2.3.5. | 連携する外部システム | 5 |
| 2.4. | 事前準備 | 6 |
| 2.4.1. | シングルサインオンの設定を行う前に準備する情報 | 6 |
| 2.4.1. | 第三者認証機関に共有する情報 | 6 |
| 2.5. | X-point 側の設定 | 7 |
| 2.5.1. | 設定情報の新規登録 | 7 |
| 2.6. | 連携する外部システム側の設定 | 9 |
| 2.6.1. | URL リンクによる SSO 連携 | 9 |
| 2.7. | 制限事項 | 10 |
| 2.7.1. | ユーザ情報の制限 | 10 |
| 2.7.2. | 利用できない X-point の機能 | 10 |
| 2.7.3. | モバイルオプションの制限 | 10 |
| 2.7.4. | その他 | 10 |
| 3. | その他 | 11 |
| 3.1. | Microsot 365・Microsoft Entra ID 指定例 | 11 |

1. SAML認証サービス設定の概要

SAML 認証サービス設定は、第三者認証機関が提供する認証サービスとの連携を設定する機能になります。認証の技術基盤として「SAML V2.0」仕組みを利用しており、汎用 SSO よりもセキュアな認証を行うことが可能になります。

2. SAML認証サービスの利用

▼用語説明

| 用語 | 説明 |
|-----------------|---|
| SSO (シングルサインオン) | 一度の認証処理によって複数のサービスの認証が許可される仕組みです。一度認証を行うと各サービスを利用する際、都度認証が要求される事無く利用できるようになります。 |
| 第三者認証機関 | ID、パスワードを一元管理し、異なるシステム間の SSO を実現する認証サービスを提供する IdP 事業者を指します。 |
| SAML 認証 | 第三者認証機関との認証方式として、X-point では SAML V2.0 の仕組みに対応しております。この仕組みで行われる認証のことを指します。 |

2.1. 前提条件

1. 動作環境

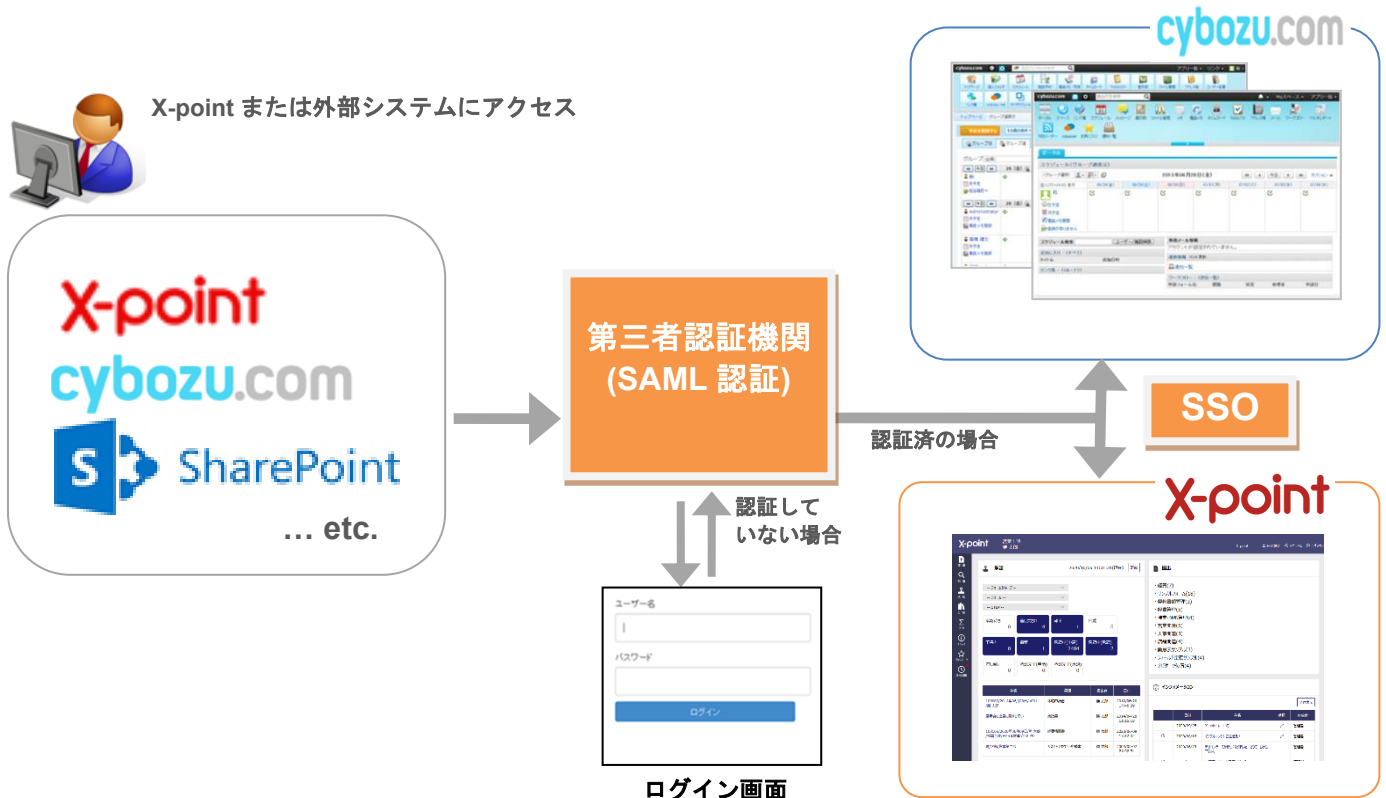
認証方式として「SAML V2.0」をサポートする 第三者認証機関の IdP をお客様でご用意いただく必要があります。また、お客様の環境が、利用する第三者認証機関が要求する動作要件を満たしていることが前提となります。

2. ブラウザ環境

SSO する外部システムと X-point の両環境でサポートされているブラウザを使用してください。

2.2. 連携の仕組み

▼連携イメージ



2.3. SAML 認証サービスの仕様

SAML 認証サービスを利用する際の仕様について説明します。

2.3.1. 連携可能な X-point のドメイン

SAML 認証サービスを利用する場合、X-point へのログインを SAML IdP を介さずユーザサイトから行う事はできません。

SAML 認証サービスを利用し X-point で複数のドメインを利用する場合、ログイン画面を表示する URL に必ずドメイン CD を含める必要があります。

SAML 認証を設定したドメイン : `https://{ホスト名}.atledcloud.jp/xpoint/samlauth/{ドメイン CD}`
SAML 認証を設定しないドメイン : `https://{ホスト名}.atledcloud.jp/xpoint/auth/{ドメイン CD}` もしくは
`https://{ホスト名}.atledcloud.jp/xpoint/login.jsp?domCd={ドメイン CD}`

！注意事項

- ※ 管理サイト用ログイン画面から利用する場合は SAML 認証を行いません。その為、利用ドメインに関する制限は発生しません。
- ※ SAML 認証の設定に問題が発生しユーザー・サイトからのログインができない場合、管理権限を持つユーザー・アカウントで管理サイトよりログインし設定内容の確認・変更を行うようにしてください。
- ※ 使用する SAML IdP サーバーの仕様により「クライアント証明書」と併用できない場合があります。事前に、同一証明書を利用したエンティティ ID、ACS URL の指定が可能であるか確認をしてください。

2.3.2. 同期すべきユーザー情報

X-point と第三者認証機関の IdP 管理情報はシングルサインオンする際に、双方に利用者の情報が必要となります。

また、シングルサインオンをするためには、ユーザーを特定するためのキーが必要となり X-point では「ログイン ID」がキーとなります。

この X-point の「ログイン ID」は、第三者認証機関にも情報として持つ必要がありますので、設定方法等不明な場合は、第三者認証機関にお問い合わせください。

具体的には X-point の応答 URL (Assertion Consumer Service URL) に SAML IdP より返される情報の「NameID」項目に設定される内容を連携に必要な値にします。

【NameID-①】任意形式の場合

| | |
|--------|---|
| Format | urn:oasis:names:tc:SAML:1.1:nameid-format:unspecified |
| 値 | ログイン ID |
| 説明 | 値に指定された文字列と X-point のログイン ID が一致する必要があります |

【NameID-②】Eメール・アドレス形式の場合

| | |
|--------|--|
| Format | urn:oasis:names:tc:SAML:1.1:nameid-format:emailAddress |
| 値 | メールアドレス |
| 説明 | 値に指定されたメールアドレスが X-point の登録ユーザーに指定されるメールアドレスと一致し、かつログイン拒否が「しない」である必要があります。 なお、メールアドレスに一致するユーザーが複数存在する場合は連携動作しません。 |

2.3.3. eFormMaker から X-point への接続

eFormMaker から X-point に接続する際は、SAML 認証は行われず、X-point に登録されたログイン ID とパスワードで認証が行われます。ユーザのパスワードは、X-point の管理者サイトのユーザ管理、またはユーザサイトの【個人設定】から変更することが可能です。

2.3.4. 通知メールからの書類表示

メール本文に記載されている書類 URL をクリックした際に起動するブラウザにおけるログイン状態によって、動作が変わります。

- 既に SAML 認証が行われている場合 (X-point にログイン中)、書類画面が表示されます。
- X-point にログイン中ではないが、IdP にログイン中である場合、書類画面が表示されます。
- X-point、IdP いずれもログインしていない場合、IdP のログイン画面が表示されます。ログイン後、書類画面が表示されます。

2.3.5. 連携する外部システム

共通の第三者認証機関を利用するシステム・サービスと SSO 連携を行うことができます。

2.4. 事前準備

2.4.1. シングルサインオンの設定を行う前に準備する情報

▼お客様が用意するもの

A. X-point のアクセス URL

`https://[ホスト名].atledcloud.jp/xpoint/login.jsp`

(例) `https://example.atledcloud.jp/xpoint/login.jsp`

B. エンティティ ID

`https://[ホスト名].atledcloud.jp`

`https://[ホスト名]-cl.atledcloud.jp` (「クライアント証明サービス」を利用する場合に必要)

(例) `https://xp123456pg.atledcloud.jp`

※ 「[ホスト名].atledcloud.jp」部分は X-point のアクセス URL と同じです。

※ 「クライアント証明サービス」を併用する場合は、ホスト名の後に「-cl」を含むエンティティ ID 「`https://[ホスト名]-cl.atledcloud.jp`」も必要になります。

！注意事項

通常、SAML IdP に認証要求を行う際に指定されるエンティティ ID は「`https://[ホスト名].atledcloud.jp`」になりますが、「クライアント証明サービス」を利用する機器から SAML IdP への認証要求では「`https://[ホスト名]-cl.atledcloud.jp`」が指定されます。

C. ACS URL

`https://[ホスト名].atledcloud.jp/xpoint/saml/acs`

`https://[ホスト名]-cl.atledcloud.jp/xpoint/saml/acs` (「クライアント証明サービス」を利用する場合に必要)

(例) `https://xp123456pg.atledcloud.jp/xpoint/saml/acs`

※ 「[ホスト名].atledcloud.jp」部分は X-point のアクセス URL と同じです。

※ 「クライアント証明サービス」を併用する場合は、ホスト名の後に「-cl」を含む ACS URL

「`https://[ホスト名]-cl.atledcloud.jp/xpoint/saml/acs`」の指定が、

エンティティ ID 「`https://[ホスト名]-cl.atledcloud.jp`」に対応する ACS URL として必要になります。

▼第三者認証機関から入手するもの

D. 第三者認証機関側の SSO エンドポイント URL

(例) `https://idp.sample.jp/SSO/endpoint`

E. 連携用の公開鍵のファイル

(例) `idp.pem`

F. 第三者認証機関側のログアウト URL

(必須ではありません。サービスによっては提供されていない場合があります。)

2.4.1. 第三者認証機関に共有する情報

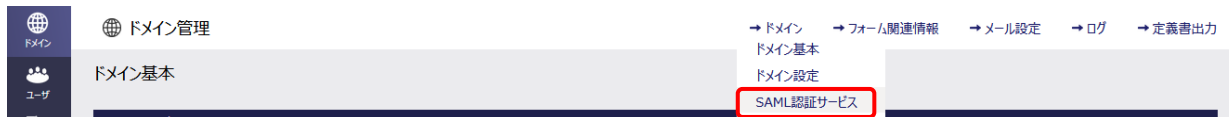
シングルサインオンするには、第三者認証機関の提供するサービスに X-point の情報を登録する必要があります。登録する方法につきましては、各サービスにより異なりますので、サービス提供元にお問合わせください。

(事前準備で用意した「B. エンティティ ID」と「C. ACS URL」を第三者認証機関に登録する。)

2.5. X-point 側の設定

2.5.1. 設定情報の新規登録

- 1) ドメイン管理権限があるユーザで X-point の管理者サイトにログイン後【ドメイン管理】に遷移し、SAML 認証サービス設定のリンクをクリックします。



- 2) SAML 認証サービス設定の参照画面で【設定変更】をクリックして【SAML 認証サービス設定】画面に遷移します。
▼SAML 認証サービス参照画面



- 3) 連携設定を行い【保存】をクリックします。

▼SAML 認証サービス設定画面

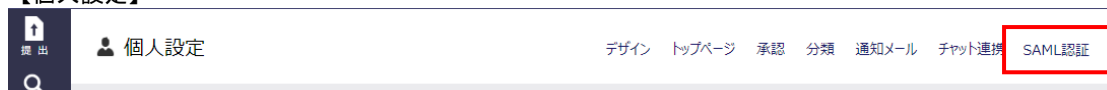


| 項目名 | 設定値 |
|---|---|
| SAML 認証サービス | 「利用する」を選択します |
| IdP の SSO エンドポイント URL | 第三者認証機関が提供する SSO の URL を入力します |
| IdP が署名に使用する公開鍵の証明書 | 第三者認証機関が提供する証明書ファイルを登録します |
| デフォルト戻り先 URL | 連携する外部システムへの URL を入力します |
| IdP 応答の NameID 形式を指定 (NameIDPolicy の Format 属性) | IdP に対し応答時の NameID 形式を指定する必要がある場合に標準指定以外を指定します。 ① specified 既定値。通常 Unspecified のままで問題ありません。 ② emailAddress 応答 NameID の書式を emailAddress と明示する必要がある場合 NameID をメールアドレス形式にする場合に指定します。 ③ Format を指定しない IdP 側が SP (X-point) の指定値を優先する動作の場合 |
| NameID をメールアドレス形式にする場合の動作 | IdP が X-point と連携する際に使用する NameID への設定フォーマット (nameid-format) を「emailAddress」に指定した場合の動作を指定します 「メールアドレスをログイン ID として使う」 ・・・ IdP から受け取る NameID 値をメールアドレス形式のままログイン ID として使用します。 「メールアドレスが設定されたログイン ID を使う」 ・・・ IdP から受け取る NameID 値 (メールアドレス) が設定された X-point ユーザのログイン ID を使用します。 |
| 個人設定による戻り先 URL の指定 (※1) | ユーザサイトの個人設定で、各ユーザが「戻り先 URL」を個別に設定することを許可するかを決定します。 「許可する」… ユーザサイトの個人設定で「戻り先 URL」を指定することが可能になり、こちらの設定値が優先されます 「許可しない」… デフォルト戻り先リンクが優先されます |
| ログアウト URL | 第三者認証機関が提供するログアウト URL を入力します |
| 連携元製品リンク画像 (※2) | 連携元製品リンクに画像を利用するか決定します 「指定しない」… リンクに画像を指定せず、テキスト表示にします 「指定する」… 任意の画像を指定します |
| リンク代替テキスト (※2) | 連携元製品リンク画像に「指定しない」を選択した場合、代わりに表示されるリンクテキストを入力します |

※1 「個人設定による戻り先 URL の指定」について

- ・「許可する」に設定した場合、ユーザサイトの個人設定の「SAML 認証」リンクが有効になります。

【個人設定】



- ・ユーザサイト/個人設定の SAML 認証設定では、ユーザ毎に任意の「戻り先リンク」を指定することが可能です。

【個人設定/SAML 認証】



※2 「連携元製品リンク画像」、「リンク代替テキスト」について

「連携元製品リンク画像」と「リンク代替テキスト」は、いずれかの入力が必要となります。

2.6. 連携する外部システム側の設定

2.6.1. URL リンクによる SSO 連携

連携する外部システムに、X-point へのリンクを作成します。
連携する外部システムのリンクの作成方法に基づき、リンクを設置してください。

< SSO 連携のリンク URL >

X-point で SAML 認証サービスを利用した SSO を行うためには、以下の URL を使用します。

https://[ホスト名].atledcloud.jp/xpoint/samlauth/[ドメインコード]

例) https://example.atledcloud.jp/xpoint/samlauth/xpdomain

< 設定例 >

連携する外部システムの HTML ページに、SSO 連携のリンクを設置します。

【例】<A>タグを利用してドメインコードとログイン ID を「GET」で X-point に引き渡す場合

```
<a href="{SSO 連携のリンク URL}">X-point</a>
```

[X-point](#)

【連携後の X-point の画面イメージ】

The screenshot shows the X-point dashboard for user 菅野 太郎. The main area is titled '承認' (Approval) and shows a date of 2020/10/06 11:50:19 (現在). There are several buttons for '承認待ち' (0), '差し戻され' (4), '却下' (1), '回覧' (0), '下書き' (8), '保留' (1), '承認中(申請)' (2484), and '承認中(承認)' (2). Below this are buttons for '差し戻し' (0), '承認完了(申請)' (0), and '承認完了(承認)' (0). A table lists items with columns for '件名', '書類', '提出者', and '日付'. The table contains three rows of data. On the right, there is a '提出' (Submission) section with a list of categories like '経費(7)', 'サンプルフォーム(18)', etc. Below that is an 'インフォメーション' (Information) section with a table of messages.

| 件名 | 書類 | 提出者 | 日付 |
|-----------------------------|-------|-----|---------------------|
| 100003/2012年06月20日/u001/勝太郎 | 休暇申請書 | 勝太郎 | 2012/06/20 17:45:39 |
| 展示会の出展に関する問い合わせ | 乗客書 | 勝太郎 | 2014/04/28 11:15:18 |

| 日付 | 件名 | 参加 | 作成者 |
|------------|------------------------------|----|-----|
| 2020/09/25 | X-point について | | 管理者 |
| 2020/08/12 | インフルエンザにご注意を! | | 管理者 |
| 2020/06/23 | デザイナーマが新しくなりました! どうぞ、お試し下さい。 | | 管理者 |

! 注意事項

- X-point 側でドメインコードを変更した場合は、連携先を指定するリンク URL のパス部分でドメインコードを表す箇所の修正が必要になります。

2.7. 制限事項

2.7.1. ユーザ情報の制限

- **ログイン ID**

第三者認証機関と X-point のユーザ情報を紐付けるための「ログイン ID」は、X-point の仕様により、半角 100 文字以内で英数字及び一部の記号（ - _ . @ * ）が使用できます。cybozu.com にユーザを作成する場合や既に半角英数（一部記号）ではない「ログイン名」のユーザが存在する場合は、「ログイン名」を半角英数（一部記号）に設定する必要があります。

2.7.2. 利用できない X-point の機能

- **自動ログイン機能**

X-point には、モバイル端末からアクセスする際に、ユーザ ID やパスワードの入力を必要としない自動ログイン機能がありますが、SAML 認証サービスを「利用する」に設定している場合、本機能は動作しません。（機能の詳細に関しては「X-point 管理者機能マニュアル」をご参照ください。）

- **パスワードの有効期限**

X-point には、ユーザが過去に行ったパスワードの設定日から指定日数が経過した場合、ログイン時にパスワードの変更を求める機能がありますが、SAML 認証サービスを「利用する」に設定している場合、本機能は動作しません。また、有効期限によるアラート出現も発生しません。（機能の詳細に関しては「X-point 管理者マニュアル」をご参照ください。）

- **パスワード失敗に関する制限**

X-point には、ユーザが指定回数ログインに失敗した場合に、アカウントロックする機能がありますが、SAML 認証サービスを「利用する」に設定している場合、本機能は動作しません。（機能の詳細に関しては「X-point 管理者マニュアル」をご参照ください。）

2.7.3. モバイルオプションの制限

- **ログアウト**

SAML 認証サービスを「利用する」に設定している場合、モバイルサイトからログアウトすることができません。モバイルサイトから PC サイトに画面遷移してからログアウトを行なってください。

2.7.4. その他

- **IdP**

IdP 側で X-point の利用が許可されていないユーザーの場合、X-point のログイン画面から IdP 認証画面でログイン ID、パスワードの入力後、X-point 側で「SAML 認証エラー」が発生します。認証時のログイン ID、パスワードが正しい状態で X-point の利用ができない場合は、IdP 側で X-point の利用が許可されているか確認を行ってください。

- **ガジェット**

X-point のガジェットは、ドメイン設定のユーザサイトメニュー利用制限の対象外となります。特定のガジェットを非表示にしたい場合は、グループウェア等で個別に制御してください。

3. その他

3.1. Microsoft 365 - Microsoft Entra ID 指定例

Microsoft Entra ID と X-point の SAM 連携は「Azure AD ギャラリー」を利用し設定することができます。利用法は Microsoft のサイト掲載内容をご確認ください。(クライアント証明を利用する場合は「Azure AD ギャラリー」を利用しない場合に記載された「識別子」、「応答 URL」項目にホスト名後に「-cl」が付く情報追加が必要になります)

「チュートリアル: Azure AD SSO と X-point Cloud の統合」

<https://learn.microsoft.com/ja-jp/Microsoft-Entra-ID/saas-apps/x-point-cloud-tutorial>

次に「Azure AD ギャラリー」を利用せず、Microsoft Entra ID で SAML 認証に「独自アプリケーション」として、X-point を追加する場の指定項目を説明します。なお、本項で説明する Microsoft Entra ID における SAML サポートは 2021 年 08 月時点の方法になります。Microsoft Entra ID の設定画面、指定方法が変更されている場合がありますのでご注意ください。

Microsoft 365 では管理センターより Microsoft Entra ID を利用します。利用プランにより Microsoft Entra ID が利用できない場合がありますので Microsoft より提供される情報をご確認下さい。(アプリのみ利用可能なコース等)

設定は Microsoft Entra ID 管理センターにて、「エンタープライズアプリケーション」→「独自アプリケーションの作成」にて「ギャラリーに見つからないその他のアプリケーションを統合します」より、登録名に「X-point SAML」等の管理しやすい名称を指定して登録情報を作成し、X-point と SAML 連携として利用できるよう設定を行います。

1) プロパティ

連携設定の登録名、Microsoft365 ポータルに表示する連携アイコン、連携を利用できるユーザーに指定を行うか否か等の指定ができます。利用ユーザーを制限するか否かを「ユーザーの割り当てが必要ですか？」の項目で指定します。制限を行う場合は詳細を「ユーザーとグループ」で指定します。

2) 所有者

構成の変更を可能にするユーザーを指定します。

3) ユーザーとグループ

SAML 認証を利用できるユーザー、もしくは所属グループを指定します。指定しない場合、X-point にログインできません。

4) シングルサインオン

シングルサインオン方式を「SAML」に指定し、SAML IdP に必要な各種設定を行います。

| 指定ステップ | 項目 | 設定値/備考 |
|----------------------|------------------------|---|
| 基本的な SAML 構成 | 識別子 (エンティティ ID) | https://{ホスト名}.atledcloud.jp (規定) https://{ホスト名}-cl.atledcloud.jp |
| | 応答 URL (ACS) | https://{ホスト名}.atledcloud.jp/xpoint/saml/acs (規定) https://{ホスト名}-cl.atledcloud.jp/xpoint/saml/acs |
| | サインオン URL | ※ IdP 利用で必要な場合に「応答 URL」(-cl 無し)を指定する |
| | リレー状態 | domCd={X-point 連携ドメイン CD} ※ 空欄でも構いません |
| | ログアウト URL | 指定しません |
| ユーザ情報とクレーム | givenname | user.givenname (初期指定のままにする) |
| | surname | user.surname (初期指定のままにする) |
| | email address | user.mail (初期指定のままにする) |
| | name | user.userprincipalname (初期指定のままにする) |
| | 一意のユーザー ID | ・ ExtractMailPrefix(user.userprincipalname) あるいは、 ExtractMailPrefix(user.mail) ExtractMailPrefixd でメールアドレス形式を変換します。変換により “@”より前の部分のみになります。 |
| SAML 署名証明書 | 状態 | アクティブ ・ 署名オプション : SAML アサーションへの署名 ・ 署名アルゴリズム : SHA-256 |
| | 拇印 | Microsoft Entra ID で指定されます。 |
| | 有効期限 | Microsoft Entra ID で指定されます。 |
| | 通知用メール | 初回作成者が設定されます。 複数追加する場合や変更の必要があれば編集する。 |
| | アプリのフェデレーション メタデータ URL | Microsoft Entra ID で指定されます。 |
| | 証明書 (Base64) | 使用しません |
| | 証明書 (未加工) | X-point に登録する公開鍵の証明書をダウンロードします。 |
| | フェデレーション メタデータ XML | 使用しません |
| X-point SAML のセットアップ | ログイン URL | X-point の SAML 設定「IdP の SSO エンドポイント URL」に登録します |
| | Microsoft Entra ID 識別子 | 使用しません |
| | ログアウト URL | X-point の SAML 設定「ログアウト URL」に登録します |

※ “-cl” が付く登録は「クライアント証明書サービス」を利用する場合に必要です。利用しない場合は不要です。

-
- 5) プロビジョニング
指定しません。(変更しません)
 - 6) アプリケーションプロキシ
指定しません。(変更しません)
 - 7) セルフサービス
指定しません。(変更しません)

■改訂履歴

| 改版 | 改版内容 |
|--------------|--|
| 2021年10月1日版 | 初版リリース |
| 2022年3月28日版 | 2.5.1「設定情報の新規登録」NameIDのメールアドレス指定動作を追記 |
| 2022年5月10日版 | 2.5.1「設定情報の新規登録」NameIDのメールアドレス指定動作の説明の不備を修正 |
| 2022年11月11日版 | 3.1「Microsoft 365 Azure ActiveDirectoys 指定例」に「Azure AD ギャラリー」に関する記載を追加 |
| 2023年8月31日版 | 「2.7.2. 利用できない X-point の機能」パスワード有効期限のアラート出現について説明追加 |
| 2023年9月12日版 | 2.5.1「設定情報野新規登録」に NameIDPolicy の Format 属性指定を追記しました 「Microsoft Azure AD」「Aure AD」の表記を「Microsoft Entra ID」「Entra ID」に変更しました。 |
| 2025年10月6日版 | 「2.7.4.その他」 ・X-point のガジェット表示制御の制約を追加 |
| 2025年12月19日版 | 「2.3.4. 通知メールからの書類表示」の説明の表現を改善。 |